

校長通信「学ばん共に」



その3 「一生の財産」(修学旅行帰校式 校長の言葉)



5月25日 三千院の山門にて(3年2組)

『月日は百代の過客にしてゆきかふ年もまた旅人なり』…月日は永遠にとどまることのない旅人であって、過ぎ去っていく年もまた旅人である。松尾芭蕉、奥の細道の一節です。…修学旅行が終わって、心に寂しさを感じている人も多いと思います。私もその1人です。

心の中に思い出がひとかけらでも残っている人はこの修学旅行が忘れられない素敵な旅になった人です。そして、それは一生の財産となります。

私の感想を言います。「可美の学舎」を背負う学年にふさわしい…素晴らしい修学旅行でした。助け合って活動する姿、仲間と楽しそうに食事する姿、何かに心を動かされてカメラを向ける姿、お世話になっている人にお土産を買う姿、ガイドさんやお坊さんの話に真剣に耳を傾ける姿、添乗員さん、運転手さん、ホテルの方にお礼をいう姿…

みなさんの様子を見ていて、「3年生たくましく凛々しく成長したなあ。体も心も立派になったなあ」と思いました。こういう素敵な行事に出会うと、北村はなぜか、歌いたくなります。1曲歌います。たぶんみなさんは知らない歌です。(…歌う…「あの娘が振っていた真っ赤なスカーフ誰のためだと想っているか…」)

「真っ赤なスカーフ」という歌です。50年前、私がまだ小学生の時、毎週欠かさず観ていたテレビアニメ…宇宙戦艦ヤマトのエンディングテーマです。当時の私は録画はもちろん録音する道具さえありません。だから、テレビに合わせて毎首歌って覚えました。10代で出会ったものはなぜか忘れません。これも一生の財産だと思います。なぜこの歌かという、この歌にでてくる「旅立つ男の胸にはロマンのかけらがほしいのさ」というセリフが印象に残っているからです。

出発式で「旅には出会いがある」と話しました。本やネットの中では出会えない「本物との出会い」だったら、さらに素晴らしいとも話しました。ただし、そうした出会いを感じ取れるかどうかは、心の中にそれを感じ取れる入れ物があるかどうかだよ、という話もしました。みなさん、どうですか。心の中に何が残っていますか。自分には、そんなものあるかなあという人も、よ〜く探してみたら、きっと「ロマンのかけら」が見つかるはずです。

しおりを読み返しながら、自分の目に映っていたこと、耳がとらえていたこと、思い出してみてください。旅の楽しみはそれらを思い出すところにもあると思います。

2年生への報告会に備え、記憶が新しいうちに、心に残ったことをもう一度メモしておくことも、意味のあることだと私は思います。旅のゴール…報告会に期待しています。私の話は以上です。最後まで聴いてくれて、ありがとうございました。

修学旅行期間中の可美中HPへのアクセス数

5/23…476

5/24…531

5/25…454

合計 1461 アクセス

心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(北村健治)